

令和7年度



園だより 10月号

杉並区立下高井戸子供園

教育目標 “しあわせいっぱいの子供園”

○もりもりそだつげんきながらだ ○たいせつななかまとじぶん ○かんじるこころとあたま

心も体もぐんぐん大きく！

主任教諭 中村 咲希

9月13日から9月21日の間、【東京2025世界陸上競技選手権大会】が開催され、連日テレビや新聞でも大きく取り上げられていましたね。私も家族でテレビ観戦をし、日本代表の選手や世界各国の代表選手の姿を見て、胸が熱くなりました。

我が家の中の子どもたちは、トラック競技のスタート合図を聞き、選手が走り出す姿に続き、家の中をバタバタと走り回る姿がありました。選手たちの力いっぱい走る姿に興味をもち、思わず自分も走りたくなったようで「走るの速いでしょう！」得意気です。

以前、下高井戸子供園で運動遊びについて研究をしたことがあります。子どもたちは運動遊びを通して何を経験しているのかを分析しました。

- ・思わず自分もやりたくなる【感じる】
 - ・いろいろなやり方で動く【多様に】
 - ・自分の動きに目的をもって工夫して動く【考えて】
- など、動きの質が深まることに合わせて、
- ・自分から動く【自分】
 - ・先生と、友達と動く【先生】【友達】
 - ・学級のみんなで動く【みんな】
- など、人との関わりも運動遊びでの育ちの大きなポイントであることが分かりました。



子供園でも、ぞう組の子どもたちが世界陸上の話題から、「今日も走りたい！」「みんなでリレーしよう！」と張り切って園庭に集まってきたました。「自分が先にバトンを渡した。」「勝負に勝った。」など、見て分かることへ気づきはたくさんあります。しかし教師はその気づきに加えて、『どんなところを楽しんでいるのか』を児童の動きや言動から読み取り、「まっすぐ最後まで走りきったね。」「腕をいっぱい振っていたね。」「しっかりバトンを渡していたね。」と、『次に育ってほしいこと』を意識して、子どもたちにかける言葉を変えています。その言葉を受けて、「腕を大きく振るといいんだ！」と自分の走り方を考えたり、「バトンを落とさないで渡すぞ！」とみんなで力を合わせることについて考えたりするきっかけが生まれています。自分の頑張りや友達の頑張りに気が付いたり、次はもっと頑張ろうと気持ちを切り替えたり、体だけでなく、心も大きく育っています。

10月11日はいよいよ運動会があります。今年も【しもたかオリンピック】と題して、各学年が日頃楽しんでいる運動遊びや、学級の目当てに向かって取り組んできたことを、お家の方に見てももらうことを楽しみにしています。

お家の方と一緒に、心と体の育ちを感じ合えたら嬉しいです。

たくさんの応援をよろしくお願ひいたします。